

今様東夷奴

抄

82. 三三

三三  
抄  
末  
六

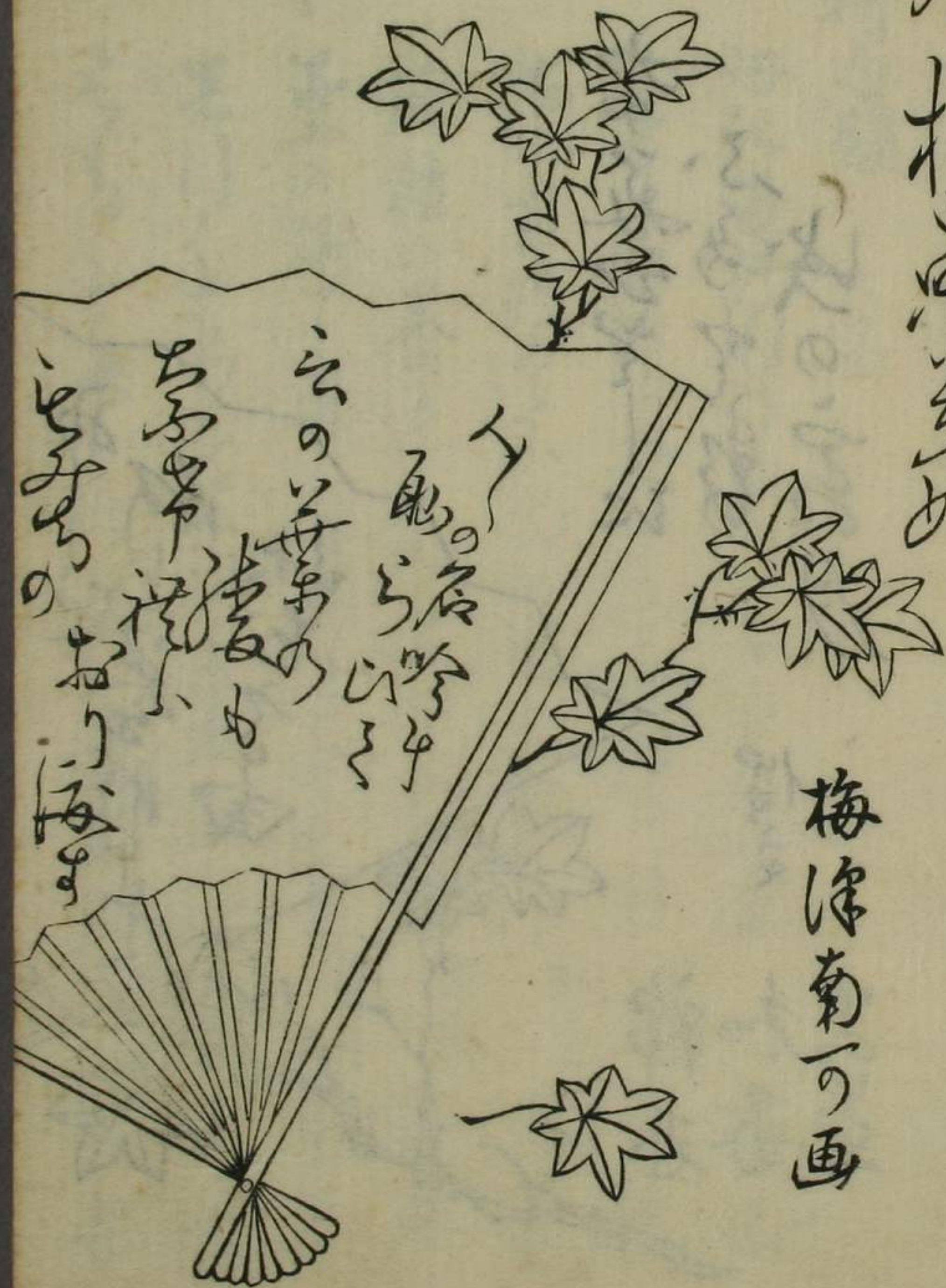
へ利9  
3869  
47





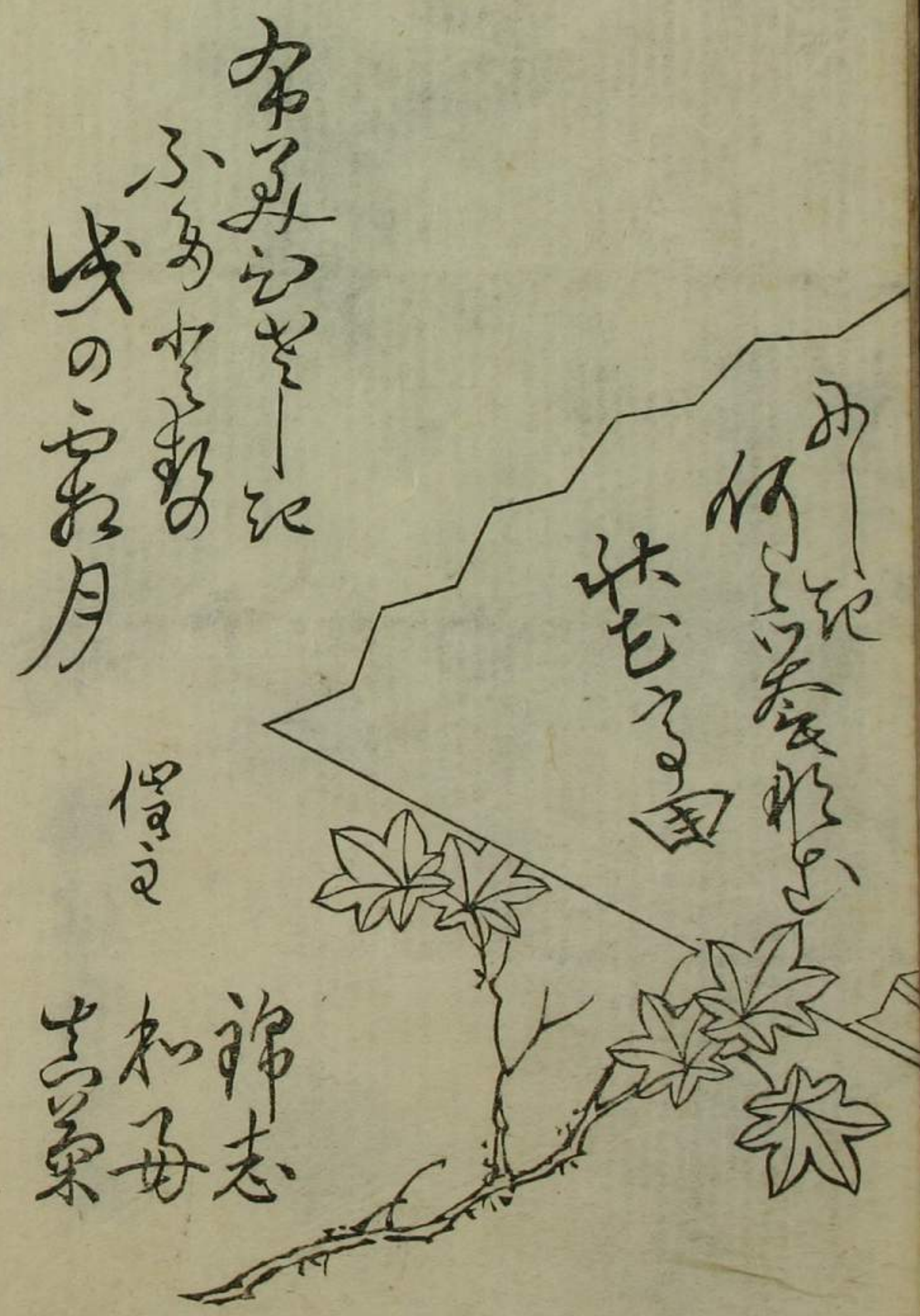
特  
9 利へ門  
3869  
47 巻

今様東葉ぬ



梅津菊可画

大正七年三月廿一日  
室井平藏氏贈



何れも美なる山

秋の心

常夏心せし記

ふたふたの

秋の心

得て

神志  
和母  
志菜

今様 東美ぬ御初會 為仲之官道在卷



折句題 八五

母は眉は花もりける古の葉

新志

春の心を花もりける古の葉

青中

橋の雲はあふれぬの富士白

志菜

秋の心を花もりける古の葉

松琴

葉の絶てぬも花もりける古の葉

葉舟

若くはまらみ帯別る蓋は秋

花咲

心を花もりける古の葉

粟舟

早く道はく井の端も雪は朝徳利達一鶴

たふらゆる毛去よ矢三の平は落て 縁志

齒牙雪の積く危市法もゆんご流 今

まぶしく十騎まぶらぬゆく矢口八子達茶人

むさく〜事合武後の袖へ味噌五子例五茶

彩〜好ま積〜裁の雪も出く橋連松月

鼻法あま毒ゆるむ子の指すむし徳利達花雪

晴てぬる月も卯ふハクノ時 為

折句題 エリニ

仕お〜辱も来る年忘見客業力 吉菊

泣連と強る雪の門口前も晴り 兼秀

水魚空ふ口一陽氣も寮栞見 賢波

白雪隠色二り月廿似〜奴 和好

始終不絶て奇せ鴻も似〜吾人 全

おねねのまき日おや庭の白さ 一笑

鴨のまき合淋〜寮の池 吉茶

島田の毛癖せ産前即〜二女思 あ茂

仕附草と果坊徒〜似合おる 一落

山篠井や言ふ万本危の荷籠

千成

折句歌 七シハ

柳指花辞 宜葉隠は母と嫁

和好

室お市の仕入と延喜も流しんて

瑞志

紅花もふの字お夏裏の端おきて

栞月

耳へ並く珠数手の内と母おきて

早吟

流白髪 皴もゆりこりさうちのか

瑞志

物静 伝るも嫁の針 きふあと

松琴

襟切る 勝負流る場面の鳴り

兼道

百牝の景を毛目の下ふ八つ玉ク

兼壽

耳新 しく 髪り目の 嘯 重月

又葉

実り 葉 しく 柘杞垣の初時雨

弥志

冠染

染る 遺平 しく 遠さ 同ひ しく

茶人

染る ぬりの 瓢の 落お 葉ふ

此窓

染る 振り母も 踊り 又 葉ふ 油

和好

染る 標板へ 大工の 籠 又 葉

一向

染る 出ま しく 祝ひ 七牝の 掃 籠

可祝

冠子

子百知る善布はア後殿ウ新造 ハ子代 遊屯

子燭流は仁本程の奥強 スキヤ 志果

子揃りおし教を二階全事の用 又主人

子の甲利り毛筆六子の奴能 覽波

子負苦ろしむ徳り人復へ布 志兼

子の多心仕出しを子海老志人よ 弥志

子控て漏れ巨魁 とらりと火 柔舟

子信々の心を深く意の撥寄兼 和好

子裁おろし態を箱の上 出窓

子水泮氷りも抑きおろし拵 柔舟

子以を役と母梅火強りも皺 弥志

子入色せぬ庭も冬し雪の庭 一笑

打込歌 子本

尾師の継本琴をさうつ拍子 屯嘆

大本は探書子技の力子替古 志兼

舞全市條の成布随ふ初子替 又主人

かりちり本区入るお島又瀬子所 ハ子屋 花魁

本馬百初メお茶子ても何れも電  
様子も折丁交結ひ跡木性  
むせり子疏黄くさめして情す海木  
花音

五文字歌 南せり元

道子風の平を新を引立て  
引疎り返して微塵も侍り附  
店く船り酒り急送入り  
新島日記て大入茂か付  
お茶屋も海草又白魚て言せ  
無集  
早吟  
白鳥  
吉葉

福の神を商人の信ト  
這入口で母を理うとくれ  
全  
丸吉

五文字 赤い物

芭蕉此筆の字記りを笑  
旅道下りり目出さ度  
清り茶又中々様をかゝらん  
不森の番を尻う重ひ  
枯枝千一馬うそま  
立り又切て洞子の跡り出  
吉葉  
無集  
一鶴  
吉葉



形よりいづれを勝り  
流りッ子とけ我儘も通り  
湯よりより殺しハ深ひ  
玉文字 美をまゝ  
一葉  
一笑  
早吟

遊子の南で兵卒へ送入り  
借りしこ雪踏を子供よぬさせ  
雪の毒こり腕の目をと換り  
乳母鼻をさく坊を 強き  
元服をささせて羽織をさす  
一葉  
今  
一葉  
白鳥

雪の且夕の景ををえと  
四方の切子も新巻て舞を  
獨唄も凡々の名曲なり 迷ひ  
初ひなるこり首尾を案し  
浪花講の拓ををり  
初ふく流し 打ち  
一葉  
一葉  
五葉  
一葉  
白鳥

初會  
雨仲をさすの七日窓巻

折台巻 三毛判  
たゞ友はえのり角の連ハ門  
遊花

辛抱うえ、み錦をよめて古に  
 姑の使引く嫁のゆく思  
 せ度音物好きと書きおせし書  
 志とむ夜書の上は沈む月色  
 白魚吸物致附きて来しと娘  
 思案別物歎仙のうづも書  
 霜夜は鴨の書となくくせし松垣  
 汐引て家ふる書も遠くはる千鳥  
 書も通書書ふと胸よ表の字のす  
 一 白  
 今  
 志 葉  
 海 志  
 松 月  
 葉 寿  
 花 咲  
 志 葉  
 松 月

強きおるもり、客書 梅子の涙くお松口 西国  
 白く彩りお誘裁つ翻れ書のの縁 上り達  
 下名書きりる乳冷やりと書き初字  
 知れぬ書お母と嫁のゆり 書  
 時面を信き客とせしとせし度  
 芝居又と戻りしりかりお松枝嫁  
 志の度荒れ世下とせし書 書  
 砂もむけ持内通るし書 書  
 虎 文  
 葉 キ  
 叶 宗  
 和 好  
 千 鶴  
 葉 寿  
 志 渡  
 書 中

折句歌 ヲイハ

落葉をすく入おぢ〜御母態手麻布 永里  
 落葉水入毛種をたすも玉 花咲  
 お森あくと入はか〜汗り波 の祝  
 お返り中お委ぬと色む母の物 花咲  
 流るる賣市のはめ小火をほけて 今  
 お持遊可きい西園も日向極 千成  
 重く立居り嫁裾を引く狭 今  
 折鶴ちちと鞠お子の紋〜洞 志業  
 又〜世帯も別棟り母と嫁 今

及び腰徒らあそびり多〜眼 覧波  
 押色込む糸を蘇ふ袴の柿 花  
 一途くハあ〜ととるる毒も抜ある扱 丸  
 お中おかると娘牙振り啼き泣 千歳  
 初〜あ〜ととるる毒も抜ある扱 言傳 孫お  
 折るるも平もをい日の初をり音 花咲  
 お密〜やあ〜と私の母〜門 孫  
 急〜と〜と〜門書よ書く音 花咲  
 又〜子の信も明く〜今日の誓の志 今

大海目之唐ハ新耳一春の評  
お徳者又のやふお作りと孫は乳  
志業 千歳

折句歌 キハテツ

切て窮一坊罪を解く母の例  
切きてつとく誰れす悔はく落又  
永里  
本宿の棧橋碑も寂て苦み家  
志業  
美業焚く秋破風の鬼もあふ福茶  
志業  
切ら栲ひも陽を力の附て焼又  
志業  
清定又入り後よま首の出まへ程  
今

切り落もちちり其も副次く不  
可祝  
事一嫁をとりてこのる子傳人  
早登  
さしむるも情多へ棲む出目の彫り  
志業  
びく灯り燃る言も陽を業秋洞  
今  
本地の状築塚ハ湯を吐て返す  
志業  
ゆみくくすも剣射 初も物事と判  
可祝  
急量一むい西も能く付と宮  
志業  
内帆も矢走景も縁於合夕  
志業  
樹屋の庭春をのそんと襦衣の香  
一笑

冠歌 拵

拵ッて出来り仕合せの能い子持 拵月

拵へる根柢申を採て拵る母 拵喉

拵ッて幕の巾目何る土俵入 拵葉

拵ッて子亦葉京初りの産衣 吉備達 拵ね

拵くて完取り子母出来り母夢忘 拵文人

拵多るみり巨葉を東下拵 拵む

拵女七不組板平六日の予状 拵目

拵ふ是より突鼓の音も刻み 麻布 拵丸

拵ひゆ〜〜お通え幕の供 拵志

拵くる笑ふよ下もとも唇口 拵舌

冠歌 拵

拵遠の拵て雅の何る拵る記 拵葉

拵満くも〜年のむ言も熱初云 拵志

拵もま〜巨魁も成る雑葉後 拵身

拵も樂焼下訓深流ひ葉のお人 拵葉

拵樂窓狎〜其の字の拵り哉 拵志

拵の法ゆる款印〜年しに拵け トクリ達 拵拙

年案定ふ春の仕暮ハ梅と梅  
 年のせく連延の櫓足て渡る橋  
 年も晴して出る嫁内の日和尼て  
 年経居續々乃樂もや浦ぬ酒  
 年も晴て嫁下立平中里の段  
 年よさる海老の込む中を歌ふ聲

キマ連  
トカリ連

竹窓  
 志業  
 花魁  
 菊亭  
 鶺鴒子  
 天浮

折返歌 坊人

人と火ハ摺りぬり柿の棧並  
 多人敷の客より後よ残る様

花咲  
 可祝

柏手屯車小砂人と流り祇  
 人氣あき渡一場寂て坊子  
 挽りけ焼夜打めく媒の人  
 人込も怖く坊多一嫁も市  
 人形袖小行列とるる 枯野  
 人足知りやぬ子市敷の影危あ坊  
 同く知立て隅田とるる音の人  
 枯てけく聖の夏暮あ古人の碑  
 管笠並舟同坊二人あ晒

和好  
 志業  
 浣波  
 瑞志  
 志業  
 花咲  
 全  
 全  
 全  
 可祝

情あまのけけと音見の一人云  
花魁

五文字歌の掛け

玲と鳴りして淡をゆと依り  
ナカキ

一卷のちるゝ氣を寝る花へ入り  
花葉

口と洗つてく柏手を鳴り  
全

食之と多し歌謡とあひ  
全

中座あうと桑へ通り  
全

音より多し蝶と  
全

多しあふと水り流り  
葉芳

あひ流り帯懸はよと向り  
全

三色祓とて禪をメ  
白鳥

お人り来多し虫く又隠れ  
襦袢袋

古利布子とて帷子と  
円紫

五文字歌の掛け

仕りゆく悩んで針を精出し  
花葉

いろは顔べのあらしを詠め  
一笑

牙折を車とて息より縁と  
花葉

城責が堀を押し切り先  
何れも負いし巨槌を捲り  
乃乾の弓子の射しど  
破りを相うしと出船を止め  
四白布下を穿て世を傍り  
一笑

五文字歌 白の拍

流連の身ももき下りまら  
流くある福乃り送ひ  
合セ後下之解セを成し  
廿力キ

鎌倉山と弥生平一龍ひ  
北ハダまましとく強き  
くらり闇で目斗星光り  
江戸のを火が大川へ上る  
きふ解平娘が季を捲き  
お侍が船より上り  
大黒の松竹を捲き出  
たり利平が海嵐を捲く  
赤穂記と浪士の物語  
全  
忠業  
栗丹  
全  
忠業  
工千り  
兼秀  
吉中  
九



神乃の妻像とさくえん 兼子

折白歌サウシ

三味線一打豆屋小娘 音 <sup>東遊</sup> 東遊

魚屋の雲麻の骨も切く物 全

考と寮の細乃をく白魚 買 東子

披く木イろうり毛屋一珠散を母 笑

羊尾風雅俗茶煮る自在全 和好

梅とを内を吐ゆの仕立 形 五夫人

月代の内を吐ゆも仕立 際 考中

陰と膝へ居縁の香豆平石 丹玄

先翁をく夢備く 梅の 香 全

折白歌シツカ

壺キ丹匠月お後をかく鏡了 鏡 香中

撞木杖突く想孫の庭の松 香 香茶

静息キ杖を遠慮も加表語藤子 折 折産

趣白梅妻も白ひを吹所く 海 海志

杖折もそくと夢をく庭傳ひ 全

下々の眼泊るの向の蝶 鯛 兼子

寔是の終いとありてを病と乳呑  
書と窓の松の傍にうらむ梅  
隣より移り口の菊白眼猫  
形を望遠の影りよの影ふ燭  
白ハ羽相産の葉籠る所の松  
ふ松松を喜ハあうくく悦  
志ありふ子松りと振袖の風の時  
折白歌ヲサハ  
若とさうり 砂唐子とく 笑  
松 露  
遊 是  
松 露  
子 朱  
若 葉  
正 咲  
若 露  
松 露

お徳ハ小四橋掛る料理敷  
内湯をさる 隆も女の懐を撫子  
驚く目先風着てさすも淫  
お徳遠く上来る者の苗子松口  
押てる産産形 漏り雨の眼  
全  
若 中  
海 志  
古 久 五  
全

冠 歌

見ぬ板木の嶽も紐の尾子付て  
又ぬ浦のヨ糸も海子自ふ反  
見らぬもお禁く時や意の尾  
若 葉  
正 咲  
若 葉

名の子どろちの男うと和合神  
 見春は里千の心成七并くせし  
 元三乃此と初年の下屋し  
 見子出逢八山を笑歌の二言矣  
 其世當を志於るに始田根成つて  
 見逢の折敷縁人の毒世世協  
 是くす戸儲志を志る毒是の指  
 見人も其い世成後の世成の世

全  
 あり祝  
 徳里  
 五夫人  
 たり由  
 寄葉  
 心重  
 一十年

新歌 歌

夜へ疎るう形の母屏の影も就  
 夜る其々世ふるを毒も其い矣  
 夜於更子より子の如るに母世の  
 夜首の夜く格文を多子ぬりて糸  
 夜君毛背中子扱へ指葉成陰  
 夜苗々あたりか上手と云の思登  
 夜更新子窓へ叫く後成るみ

夜嘆  
 升言  
 岸波  
 あり祝  
 粟母  
 五夫人  
 心重

折凶歌

長〜短へ来ドや出来ぬ縁の世作  
 世作

花も長く園ハの春葉帯屋  
吾民  
一 笑

五文字歌 くらり

かまへ切方のかまの肉ハ  
園 系

養寺あり山崎ハト夕リ  
サカキ

虫が刺つて舌をたぐ生 吐  
笑 系

馬をうきやて 舌を 吐 吐  
全

田と畑がハ重きハ 外  
白 系

揺る 破る 揺る 揺る  
海 系

五文字歌 目出な

橋の上のそまを 踏 け 系  
万 祝

ふみの 鹽ハ 毒 名 色 書 系  
万 人

心多平ノ 舌もふ もる 通 目 ぶ  
告 系

むの 舌も平ノ 蝶 ぐ 舌 あり  
全

夕子 向つて 経 ぶ 刺 出  
万 祝

舌 ち 印 を 叩ん ぶ 舌 吐 出  
海 皮

舌 門 内 へ 舌 が 喉 へ 吐  
舌 印

今 採 系 舌 吐 出

今様東夜三編

初會

折句題

ヤナト

暁より下浪風の世を春通し

暁 廿七

疲せし膝撫て春後の鳥を拾

廿七 志兼

厄も今も難あり海を、五も世湯

廿七 花咲

湖交ち地馴まそ根分々の菊を寮

八千代の 祝

野暮を且那も小女を氣小抱れ志

瑞志

折句題

ヤナト

座蒲を抱も二ツ折 弓を、藤

瑞志

酒と道具不妻客のお座持て

花咲

おのゝくたがし〜でもおのゝくた  
 盃代口元可也ら〜い〜とをん  
 横交退屈も幕もあつたの才  
 横橋むらり 夜の柳落る 夜  
 折句歌 コキヤ  
 可祝 丹頂 花波 花咲

細力ぶそ穂宮河〜ら〜いもはさ芽生  
 小自烈ち多能も掃除母抱ゆ〜と年  
 子一添乳空新屋母も丸く故を  
 子も假名書て流引おぬ是理力流  
 駒形てすく初夢もせく夜智る影  
 綿志 千成 粟亦 花咲 全

子ハ糸の切きて ちくま〜又お合し ハツ子連 花魁  
 子の名書く 胡氏河の先ッ英尼 綿志  
 冠題 二。及

二夕別まお坊遊も坊のむと 様 真兼  
 二二日大名子ち多 伴世の 旅 屯咲  
 二十夕々く掃跡を子も朝寐 可祝  
 二階くお客纏屋の 画の串 井田 東遊  
 二節り流る 流る 別道道 タチ子 和好  
 二階燈も 流る 流る 横く故を 全  
 色も能し 客引 物の 海老 塔て 兼兼

危ノ子ノ苗ノ賣ノの夢ノの伸ハい  
危ノ之ノ青ノくノ出ル葉ノ危ノ野ノ子ノ園ノ子  
お凶ノ題 見ル渡  
綿ノ志

鳥渡ノ礼ノ者ノくノ嫁ノ者ノ者  
青ノ籠ハ子  
葛ノ蒲ノ元ノのノ廊ノりノ渡ノりノ子ノ船ノとノ堀  
内ノとノるノ子ノ居ノ子ノ城ノ渡ノりノ子ノ中ノ坊ノとノ日  
沖ノ晴ノ道ノ上ノ総ノもノ地ノくノよノるノ渡ノ海  
渡ノりノ子ノ因ノ坊ノ御ノ者ノ者  
旅ノ日ノ光  
間ノ濃ノのノ渡ノりノもノ多ノ多ノとノ附ノてノるノ者ノ者  
京ノ屋ノ子  
雨ノ川  
又ノ文字ノ題 欲ノのノ皮  
全  
綿ノ志  
一  
向  
深ノ波  
綿ノ志  
全  
綿ノ志  
五ノ葉ノ葉

捨リガノ利ノいテ横ノ中ノ倒レ是  
館ノ細ノ工ノのノ多ノとノ椿ノりノく  
楊ノ物ノでノ腰ノとノふノくノりノく  
つノよノひノ重ノくノ葉ノとノ床ノく  
切リ合ノふノ中ノへノ裸ノてノ飛ノ込ノみ  
又ノ文字ノ題 面ノおノい  
水ノ邊ノくノ別ノれノとノ情ノくノみ  
志ノ赤ノりノあノりノくノいらノはノがノ上ノり  
宮ノ蓮  
合ノりノとノ道ノ中ノるノ者ノ者  
綿ノ袋  
出ル掛ノつノてノ組ノ合ノがノ浩ノノ  
京ノ屋ノ子  
綿ノ袋  
兼ノ芳

裏口のりり南が通トリリキ 一矢

お文字題 約してスル

晴々嬉しい 盃と 文章 ぬ夫人

寝歩りも 寝が 目 齒 ぞ 京シ 円樂

落し 鶉印 一ト口 ぬめ ぬ夫人

こ味 線 ち ちが 嬌り い ぬ 粟 舟

助ケて おくれと 手足と ときき 可 祝

教 せし 化ケ 出 ます トクリキ 花 君

縄目 が 巾 ても 日 影 志 だ 兼 芳

お勺 題 ヨイワ

嫁 奉 せ 礼 義 余 而 ら しく 寄 小 里 屯 咲

婿 も 暖 厥 少 々 替 々 令 魚 神 千 歳

宵 一 夕 遠 今 風 笑 々 客 と 榭 可 祝

摸 才 一 推 と 眠 ひ 輕 客 と 膝 志 兼

醉 せ ぬ 鼻 負 子 々 親 々 次 々 お 砂 條 波

余 不 の 子 々 へ して 遊 び も 續 々 西 綿 志

お勺 題 ヒトコ

光 一 見 せ ぬ 立 門 の 子 々 堂 早 吟

捨 る 手 心 一 坊 基 盤 獨 樂 ぬ 屯 咲

一ト口 一 席 々 吹 々 凝 々 肩 花 魁



引くまがみ遠く音のきけ獨樂六升  
 硝子ぶが〜 約下から椽母 坊  
 日影にあり暑も除るみ冷湯  
 冷り母ん古持ッ子のみお  
 日除の涼〜 葱物も極涼〜  
 日〜も門ト〜 簾うも椽生目  
 障マな寮おつこ量と子ハ 盃保  
 顔ひ小泣と故の血を酔ぬ智  
 お白題 テワハ  
 出ぬ書不書清神樂と胸を好  
 東子  
 花 咲  
 綿 志  
 早 吟  
 全  
 綿 志  
 花 宮  
 綿 志  
 葉 芳

おるふあよ 蘇く門トむ 雀  
 調 交能連れお涼なり娘同士  
 冠題 掛。子  
 掛糸り蘇おそ長き 夏との庵  
 掛る傘 約訂と〜 訂と念  
 のけらちやん〜 先のゆる夜及升  
 掛るお物み古用のゆるむ 温  
 掛るお持遊 徒うの水鏡 袍  
 子の着下々へ中だ通らるお 燭  
 子と海ぬ鏡あちれたと せう 宴  
 綿 志  
 和 好  
 志 兼  
 栗 舟  
 軒 暖  
 全  
 千 成  
 早 吟  
 葉 兼

手と組で子も執筆の如く花見案  
子御中 蝶も来て休む茶飯茶屋

花見  
和妓

折込歌 時鳥

時鳥今夕何うも後 連し謀叛  
るよんだ門下をの 時灯り  
根附時中と名取 休む縁  
産も文た後あは鶴が啼く時刻  
飛立つるひ時節来た 花の鳥  
田植時 休むも 鶴の鳥 山 トウ  
五文字歌 急れ

花見  
花鳥  
深波  
鳥  
鶴

英しく 朝顔が 盛り

三葉

日暮しとて 土器を 賣り

七葉

くまぬりか 一つと 花燈を ながし

猿里

流れ乃 水み布と 晒し

粟舟

大ぢうう 小柳が 切也

兼若

ママも 積りて 花を 考と 苦い

三葉

五文字歌 急れ

内が 後って 見え 世と 産と 産し  
掃 掃り 蘇が 産ひ  
富士の 山り 言り 滝神

丸若  
三葉  
葉壽

正文字歌 有テスル

玉尾一上々 夢のひと 買ひ 志兼

涼一 地ふち無草を 仕立 全

年遠ち 敷流し 多 生花

疵 年持と冷とと 悪るひ 兼芳

おる歌 フカル

落を眉鏡乃 真り母の顔 む 咲

髪考も 二階別ツ 母好 狸 里

おや ぼろの亀の甲と みる若<sup>お葉子</sup> せら 兼

不積りとは 定例で 獨容ある妻 兼 芳

お持遊を 一はく 宴ち 何ん地 東子

教り 斗りむと 弾ぬ 母古 風 弥 志

おハッ 龍鳥と 酒島の 坊と 姉 志 兼

信し 一月門の 戸重く する妻 兼 芳

折句歌 サツテ

座補もちろと 下地よの せき酒 志 兼

涼し 勝手 度く 藤る 寺男 東 遊

産痛 赤中 妻も 是や 小と 添記 花 咲

里うの 使小 伏せり 子の 足掛 梅 旭

清きりも 常袖 草の 調子 言 <sup>官達</sup> 玉 鱗

折句題 カハ江

一 厂と竹并 夏は草の苦もさそ  
買やと虫ぐ蓮も思き折ららのま似  
新羅の舟の苦勞も 夏了 廊下  
糖な庭も 蕨ふゆり 雪ん形  
風形りふ花 藤涼し しくゆき 池  
買ふおち産坊おらまの只古布  
谷も一杯と 沼り 湯の交交  
冠歌 一〇子  
一 下は 刺しと 井の子の 刺 沼り

神志 東遊 世嘆 志兼 志兼 神志 和好

一向平身 魚屋も遠入 今門  
一の字跡も 刺し ぬりの口 埃り  
一の丸をさく 大きさと 笑く 園子  
一新り 道も戻り ぬり 籠る 古の子  
一 下 調子 刺し ぬり 察の 籠  
折句題 一言  
物大と 行ひ ぬり 移る 心と 言  
云 夢も 空の 行ひ ぬり 客の 膝  
云 ねぬ 自然と 鬼灯 ぬり 厭面  
云 葉も 功若に 腕の 代 籠る 古

志兼 兼芳 神志 屯嘆 東遊 志兼 今 海旭 丑子り

五文字歌 英一

青い藤れの中と実か

七宝

垣のつらもきこも 鼓の女がまがり

七宝

小糸掛とまきまでまろ やま

全

臭いおあまろ 中と洗ひ

五夫人

巻物と 画判をま

五米

五文字歌 空う坂

裸で立つとお釋伽所ぞ

円樂

壁が寝るそ書かして強り

七宝

引のり返り 村乃 駱

五米

遠くへ大きく眼をよこす

梅旭

五文字歌 秋 以

二幅對が 席ふ 掛り

兼書

お宮集りの形り 清い

五米

女の肉へ 身成と 角

全

水と向うで 除敷と尻探り

二兼

言七拍が丸で 賣切色

五米

及化と芝居へ お腹と抱へ

全

八尋のちで 下方とよめ

兼書

